

## マテリアリティ (重要課題)

私たちは「限りない創造 社会への奉仕」を社是とし、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、「社会的価値」と「経済的価値」の両立を目指しています。2030事業計画で掲げている「目指す姿」と「提供価値」の実現に向けて、変化する事業環境を考慮し、社会予測やSDGsなどの様々な社会課題の中から、当社として特に貢献できる重要な分野を「マテリアリティ」として選定し、取り組んでいます。

社会課題／メガトレンド		機会とリスク	
事業活動	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車の技術革新(BEV・CASE)と安心・安全なモビリティ社会の両立</li> <li>● デジタル・IT化の加速による企業競争力の変化</li> </ul>	CASE (BEV/FCEV) 市場拡大	BEVの伸展による新製品の市場投入 <span>リスク</span> <span>機会</span> BEV先行市場、BEV先行OEMへの対応 <span>リスク</span> <span>機会</span> FCEV市場の伸展 <span>機会</span> 交通事故未然防止技術の進化 <span>機会</span> 燃料系部品の減少 <span>リスク</span>
		MaaS市場拡大	利用者のクルマに対する価値観・関わり方の変化 <span>リスク</span> <span>機会</span>
		市場変化	新興国のインフラ強化・法規制による市場変化 <span>機会</span>
		デジタル化・IoT・DX加速	生産の効率化(自動化・少人化) <span>機会</span>
経営基盤	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境問題の深刻化</li> <li>● 気候変動と資源不足によるビジネスの転換</li> </ul>	環境・資源	グリーンテクノロジー*による新分野の市場拡大 <span>リスク</span> <span>機会</span>
			カーボンプライシングの導入による競争力の変化 <span>リスク</span> <span>機会</span>
			ゴム・樹脂材料の使いこなし、材料開発(軽量化、材料置換、耐久性向上、新規材料) <span>リスク</span> <span>機会</span>
			異常気象による大規模災害 <span>リスク</span> <span>機会</span>
			省エネ活動の促進によるエネルギーコスト低減 <span>機会</span>
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口構造の変化 (少子・高齢化)</li> <li>● 価値観の変化／働き方の多様化</li> </ul>	人的資本	D&Iによる思考・技術・経験の多様化 <span>機会</span>
			人材ポートフォリオによる効率的な人的資本の活用(リスクリング含む) <span>機会</span>
			グローバルでの労務費高騰 <span>リスク</span>
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● BCPリスク</li> <li>● 地政学リスクの高まり</li> </ul>	サプライチェーン	地政学リスクや感染症・災害による生産影響、サプライチェーン分断、人的被害 <span>リスク</span> <span>機会</span>
			原材料費高騰、材料不足 <span>リスク</span>
ガバナンス		重要品質問題・リコールの発生 <span>リスク</span>	
		サイバー攻撃・詐欺メール <span>リスク</span>	
		機密情報漏洩 <span>リスク</span>	
			独占禁止法違反(談合・カルテル) <span>リスク</span>

\*グリーンテクノロジー：環境問題を解決、あるいは緩和するための技術・製品 (例：軽量化や脱炭素に資する技術・製品など)

## マテリアリティ (重要課題)

### マテリアリティ特定のプロセス

- 1 | マテリアリティ候補の抽出**  
社会課題、市場・社会動向、GRIスタンダードなどを参考に、サステナビリティ推進メンバーにて検討すべき課題を抽出
- 2 | マテリアリティ候補の評価・分析**  
当社の重要度、ステークホルダーの重要度に基づき分析・評価
- 3 | 経営陣による妥当性評価**  
特定プロセスを含む抽出した重要課題に対して、社外取締役などへの意見聴取を行い、マテリアリティの妥当性を評価
- 4 | マテリアリティの特定**  
経営会議体での審議を経て重点取り組みテーマを選定
- 5 | レビュー**  
会社方針と紐付けた取り組みのレビュー、サステナビリティ会議における確認・定期的なマテリアリティの見直しを実施

	サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)	主な取り組み (社会課題/機会やリスクへの対応)	KPI・中長期目標 (2030年度)	関連するSDGs 最重要分野
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クルマの様変わりへの対応</li> <li>●交通死亡事故の低減による安心・安全・快適なモビリティ社会の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●BEV化に向けた新製品の開発 <a href="#">P.26</a></li> <li>●BEV先行市場・OEMへの拡販 <a href="#">P.25</a></li> <li>●全ての人に安心・安全・快適を届けるためのエアバッグ製品の開発・拡販 <a href="#">P.27</a> <a href="#">P.48</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●BEV関連売上収益比率：40% 目標設定の計算式 BEV生産台数/自動車生産台数 ※S&amp;Pグローバル情報に基づく</li> <li>●エアバッグの生産個数：+1.5倍 (2022年比)</li> </ul>	 <p>安心・安全・快適なモビリティ社会の実現</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コア技術を活用した新規事業の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規事業開発の経験を活かした新規ビジネス拡大 <a href="#">P.34</a></li> <li>●コーポレートベンチャーキャピタルの活用 <a href="#">P.37</a></li> <li>●スマート工場の具現化(生産性倍増) <a href="#">P.38</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャッシュ・アロケーションに基づく (安心・安全、快適、脱炭素の貢献領域の拡大を目指した研究開発費や人的投資、戦略投資を中心に資金配分)</li> </ul>	 <p>イノベーション創出による社会課題解決</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CO<sub>2</sub>排出量削減・温室効果ガス排出量削減による脱炭素社会の構築</li> <li>●廃棄物低減・水リスク低減による循環型社会の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゴム・樹脂分野の知見を活かした環境配慮型ビジネスの構築 <a href="#">P.29</a> <a href="#">P.33</a></li> <li>●カーボンニュートラルの実現に向けたグローバル一体活動 <a href="#">P.54</a></li> <li>●循環型社会への貢献(Car to Car リサイクル) <a href="#">P.58</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スコープ1,2：カーボンニュートラル</li> <li>●スコープ3：△27.5% (2019年比)</li> <li>●再エネ導入率：100%</li> <li>●廃棄物量(総量)【単体】：△50% (2012年比)</li> <li>●廃棄物量(原単位)【海外】：△55% (2015年比)</li> </ul>	 <p>脱炭素・循環型社会の実現</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会との共生</li> <li>●多様な人材の活用推進・人権尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会に根差した取り組み (地域自立的経営、センターオブエクセレンス) <a href="#">P.42</a></li> <li>●ダイバーシティ&amp;インクルージョン <a href="#">P.62</a></li> <li>●安全・健康経営 <a href="#">P.68</a></li> <li>●サステナビリティ経営を支える品質とサプライチェーンの強化 <a href="#">P.65</a></li> <li>●地政学および経済的リスクへの対応 <a href="#">P.82</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権に関する研修実施率：100%</li> <li>●海外拠点のローカル幹部職比率 (副社長以上)：60%以上</li> <li>●女性管理職数 (比率)【単体】：100人 (8.8%)</li> <li>●中途採用者の管理職比率【単体】：30%以上</li> <li>●仕入先のサステナビリティ活動実施率：100%</li> <li>●従業員エンゲージメント肯定率【単体】：75%</li> <li>●重大災害発件数：0件</li> </ul>	 <p>多様な人材の活躍による持続的成長</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●誠実な会社としてのコーポレートガバナンス</li> <li>●コンプライアンスの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●BCPのレジリエンス強化 <a href="#">P.84</a></li> <li>●内部統制の強化 <a href="#">P.70</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重大法令違反件数：0件</li> <li>●サイバーセキュリティ重大インシデント：0件</li> </ul>	 <p>公平で透明性のある企業統治体制</p>